

教育原理

担当教員 山本 孝司

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育の基本的概念、教育の歴史に関する基礎的知識、教育に関する様々な思想を理解し、教育を成り立たせる諸要因、過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷、多様な教育の理念について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育とは何か／講義の目的・概要と進め方について
2	教育の目的と本質
3	教育と人間発達（1）発達のメカニズム
4	教育と人間発達（2）レディネスと教育
5	教育と社会／教育の理念についての理解
6	諸外国における教育の歴史と思想（1）古代の教育
7	諸外国における教育の歴史と思想（2）中世・近世の教育 育
8	諸外国における教育の歴史と思想（3）近代の教育
9	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（1）ヨーロッパ
10	近代教育への批判と新教育運動の思想・実践（2）アメリカ進歩主義教育
11	わが国における教育の歴史と思想（1）戦前
12	わが国における教育 歴史と思想（2）戦後
13	教育における家庭の役割
14	社会のなかの子どもの変化
15	今日の子どものめぐる諸問題（いじめ、不登校などをめぐる状況と学校教育の在り方）

【履修上の注意事項】

授業には参加的態度で臨むこと。
 その他、授業外でも教育にかかわる情報をキャッチする鋭敏なアンテナを持ち合わせて欲しい。
 事前にテキストを読み、事後には復習をしておくこと。（120分）

【評価方法】

原則として学期末試験（70%）、小レポート（30%）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013年。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

発達心理学

担当教員 水間 宗幸

配当年次 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

基本的な教養および対人専門職の基礎的位置づけとして発達心理を位置付け、これを学ぶことにより自己及び他者をひとつの人格として考えることができる。またそれぞれの発達段階の一般的特性を理解し、望ましい発達およびその支援を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	専門職として発達心理学を学ぶ意義～ガイダンス
2	発達心理学の基礎理解～発達理論、発達段階、発達課題、発達と学習の関係
3	乳幼児期の発達の特徴～人・モノとの出会い
4	愛着形成～親との関係性と子どもの行動
5	認知発達～子どもの遊びと社会性の広がり
6	ことばとコミュニケーションの発達
7	自己と情動の発達～感情発達が行動に与える影響
8	仲間関係とこころの理解
9	道徳性と向社会的行動の発達～集団の中で学ぶもの
10	児童期の発達の特徴～学校教育という環境と発達課題
11	学校のなかでの子ども～学びを支える指導の在り方
12	発達の多様性の理解～発達をつまづきや多様化する社会の中の子どもの困り感
13	思春期・青年期の発達の特徴とアイデンティティの形成
14	成人期から老年期の発達と課題
15	発達と学び～生涯学習と生涯発達支援

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回授業内容に関して必ず教科書の当該箇所を読んでおくこと。復習においては、キーワードを自分のことばで説明できるようにしておくこと。

【評価方法】

学んだことについて総合的な理解がどの程度できているか、レポートにて評価する。フィードバックについては希望者に対し個別でレポートのコメントを行う。

【テキスト】

『新・プライマーズ/保育/心理 発達心理学』 無藤隆・中坪史典・西山修編著 ミネルヴァ書房

【参考文献】

講義過程でも適宜紹介の予定

教育行政論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1 教育行政の基本概念を理解し，教育行政をめぐる諸問題について自分の考えを持つことができる。
- 2 日本国憲法及び教育基本法から導き出される教育の基本原則，及びその意義を理解する。
- 3 学校教育における具体的な事例について，その多くが教育行政と密接に関連していることを理解する。

【授業の展開計画】

学校教育における様々な場面において，事例や判例を基に，学校教育に関する様々な場面や課題を想定し，その実態と問題点に視点を向けさせる。

次に，その根拠となる関連法規や資料を判断基準として，実際の場面ではどのように判断すべきかについてのディスカッションを中心に展開する。

授業計画

第1回：学校教育制度の目的と構造

第2回：教育行政① 教育委員会の組織・機能，教職員の人事権

第3回：教育行政② 学校選択制の拡大，教育振興基本計画

第4回：学校組織① 校長の職務と権限と職員会議の機能

第5回：学校組織② 校長，副校長，教頭の資格要件とその緩和

第6回：学校組織③ 養護・栄養・図書教諭等の職務

第7回：学校組織④ 学校とそれを取り巻く地域との連携

第8回：教職員① 学校教育活動の計画と評価

第9回：教職員② 教員免許更新制と教職大学院の役割・機能

第10回：教育課程① 学習指導要領の法的拘束力と基準性

第11回：教育課程② 学習指導要領とその改訂

第12回：教育課程③ 教科書採択制度

第13回：児童・生徒への対応① 登下校時を含む安全の確保と現代的課題

第14回：児童・生徒への対応② 学校事故における法的責任

第15回：児童・生徒への対応① 懲戒の範囲と体罰，出校停止

定期試験 試験期間中に実施

・知識・理解（基本的事項や学習指導の理解），学んだことを学習指導に生かす姿勢

【履修上の注意事項】

- 1 ペアによるディスカッションをするため，ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので，常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加30%，課題提出？発表30%，期末試験40%で評価する。60%以上を合格とする。再試験は実施しない。

【テキスト】

特になし（毎回，学習プリント及び資料を配布する）

【参考文献】

毎回，資料を配布する。参考資料については，授業の中で随時提示する。